

# 第9回高大連携教育研究会

## 「教養と基礎学力」

— 高大連携と高大接続から考える —

---

平成29年9月5日(火) 学校法人ソニー学園 湘北短期大学

総合ビジネス・情報学科 加藤 美樹雄

# 報告内容

---

- はじめに
- 基礎学力の向上と高大連携、高大接続
- ビジネス教育の高大連携、高大接続
- まとめ

# はじめに

---

## ・自己紹介

25年の高校教員生活から大学教員へ

## ・用語の定義

教養・・・社会人として最低限必要となる知識

基礎学力・・・高校入試レベル(中学3年レベル)

高大接続・・・学力レベルの接続(入試を利用)

高大連携・・・高校と大学の連携した事業

## ・大学入試制度の多様化と教養

AO入試、推薦入試など                      センター試験の改革の影響は、一部の進学校のみ  
教養が身につかないことと、基礎学力の低下は入試制度の影響？

# 神奈川県立高校入試 共通選抜

平成25年から論理的思考力をより問う内容(共通選抜)となりなしたが、  
平成29年度共通選抜(全日制の課程)の合格者の教科別平均点

外国語(英語) 51.9 国語 73.1 数学63.5 理科46.9 社会54.5

数学の分布:

数 学	
得点	割合
100	0.8%
91-99	2.8%
81-90	11.1%
71-80	22.2%
61-70	24.4%
51-60	18.5%
41-50	11.0%
31-40	5.7%
21-30	2.6%
11-20	0.9%
1- 10	0.1%
0	0.6%

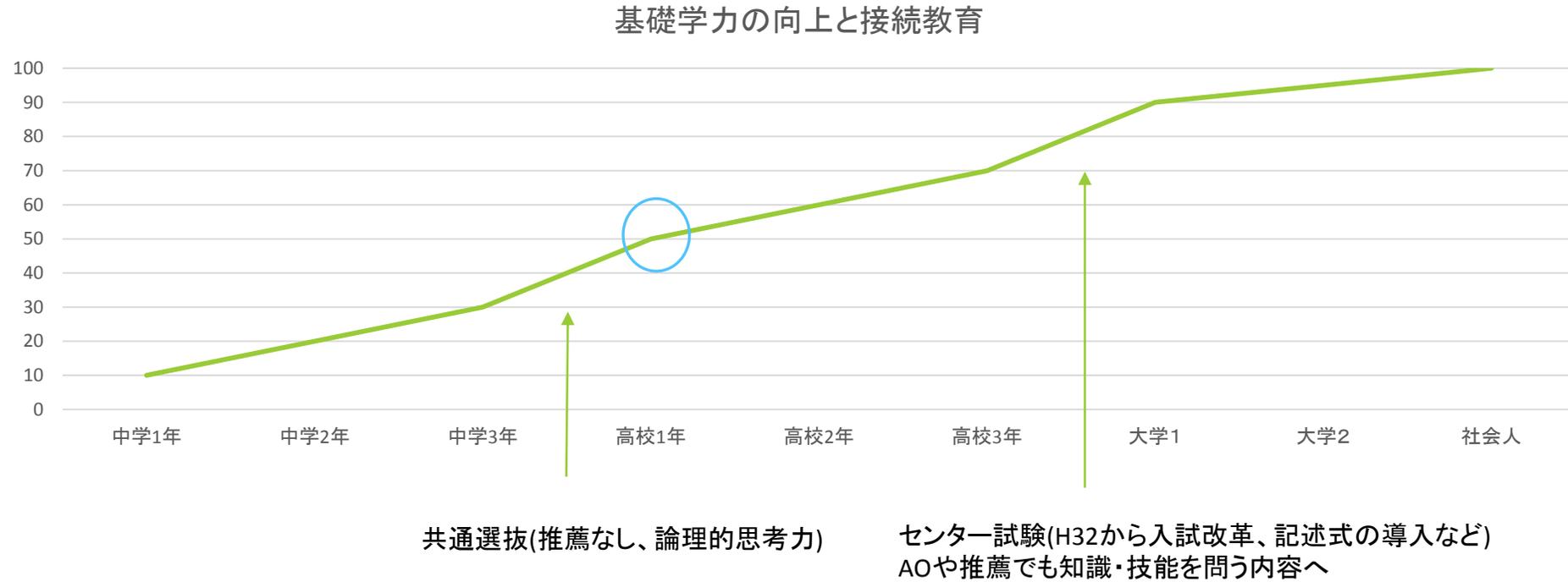
← 中学校の学習内容を半分程度定着

大学全入の時代、教養の定着と基礎学力の向上は、  
社会人としての最後の砦である大学だけの問題ではない

資料: 神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課「平成29年度神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果」平成29年3月公表

# 基礎学力の向上と接続教育

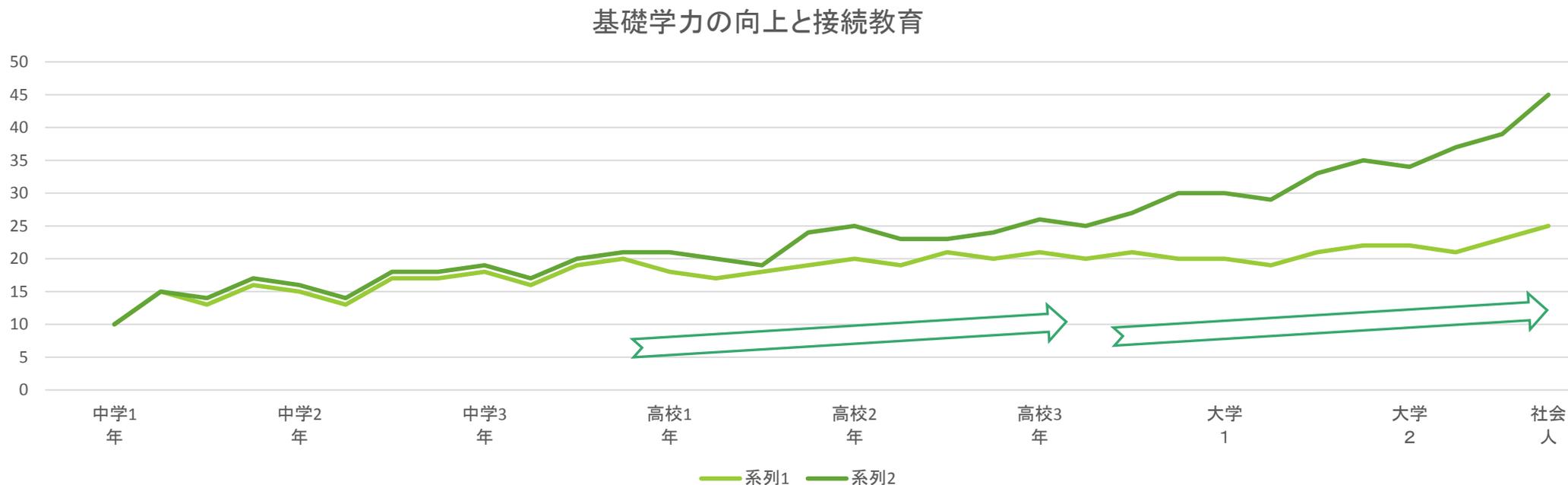
最大レベルの教養を100としてイメージした、中高接続と高大接続のイメージ図



※着実に教養が身についていくレベルでは、接続教育として入試を利用してもよいが、教養定着が低い場合に果たして入試は有効となるか

# 基礎学力の向上と高大連携

## 教養レベルが低い場合の高大接続のイメージ図



実際は、3歩進んで2歩さがる 系列1を系列2にするために  
高大連携 教養の定着に向けた掘り起こし教育の協力体制の構築が必要  
高大だけでなく、中高の連携も併せて構築していく必要があるが、より高大連携が重要と考えられる(精神的にも成長する場面である)

# ビジネス教育の高大連携(基礎ビジネス教育の向上)

＜課題＞ 専門高校や総合学科である程度のビジネス教育を履修し、検定試験(簿記やITパスなど)をすでに取得しているが、同様のビジネス系大学に進学した場合、他の初めて学習する者と同じスタートラインでよいのか、このような専門性のある科目の接続教育は構築することはできないか

## ＜高大連携実施例＞

C大学・・・簿記検定と一定の要件を入学前に満たした学生に単位認定、必修科目が減り、他の科目を多く履修可能となる。(入学前、連携校のみ)

K大学・・・簿記検定取得者は、特別クラスを設置、より高度な資格取得にチャレンジ、特待生などで高度資格取得者を確保し、職業会計人の合格者を輩出する。(入試、公募)

T大学・・・簿記検定取得者は、チュードントアシスタント制を導入、一定の報酬あり。(入学後)

そもそも商業高校などが減少しているので、K大学のような接続教育は難しいが、C大学やT大学のような試みは実施可能である。また、課外講座の設置や専門学校との連携など

# まとめと今後の課題

---

## <まとめ>

- ・入試制度を活用して高大接続の効果を得られる大学は、限定的であると考えられる
- ・大学全入時代、繰り返しの掘り起こしのための教養教育が重要である
- ・確かな基礎学力の向上を目指し、高等学校での掘り起こしと大学での掘り起こしの連携を構築する
- ・中高連携も必要となるが、より精神的な成長がある高大の関係が重要である

## <今後の課題>

- ・掘り起こしのための高大連携の具体的方法や基礎学力の差のある学生への連携など
- ・教養として、論理的な思考力や判断力の育成のための連携も今後考えていかなければならない
- ・新たなビジネス教育の高大連携の提案として、入学定員の少ない大学でも、資格取得などで実施可能なものを構築